

令和4年度 5歳児 「お店屋さんごっこ」

(令和4年度実践前修正箇所を斜体
実践後修正箇所を囲み文字にて示す。)

1. 期間 10月～11月

2. 設定の理由

3歳や4歳のときに、5歳児に「お店屋さんごっこ」に招待してもらい、5歳児が作ったものを見て、すごいと思ったり、気に入ったものを買うことを楽しんだりした。そして、4歳のときには、「さくら組になったらドレス屋さんをする、剣屋さんをする」としたいお店を決めて楽しみにしている子どももいた。

5歳になると、好きな遊びの中で「ショーごっこ」「お化け屋敷」などをして年下の友達を数人招待することを喜んだり、「お店屋さんごっこ」をいつから始めるのか心待ちにしていたりする子どもがいる。そこで、学年全員で数人の友達と一緒にお店屋さんを開き、3歳・4歳児を招待する「お店屋さんごっこ」を設定する。

運動会の頃から、あんな遊びがしたい、できるようになりたいと自分なりに目的をもって遊ぶようになり、自分が目指していることに対してあきらめずに取り組み、できた喜びを味わえるようになっている。友達関係では、5、6人の友達と自分たちでルールやチームを決めて遊び、その中で困ったことが起きても、リーダー的な子どもを中心に話し合いをして自分たちで解決をしようとしている。~~4歳児に対しても、一緒にリレーや鬼ごっこをする中で幼さを認めつつ、4歳児が分かるように考えて教えてあげたり、困っているときには助けてあげたりするなど、教えてあげたい、助けてあげたいという気持ちのあるかかわりが見られるようになってきている。~~また、園庭に落ちている木の葉やどんぐり、枯れ枝等の自然物にも興味をもち、それらを自分の作りたい物やイメージに近づくように身近にある材料と組み合わせて工夫しながら遊びに必要なものや美しい飾りものを作ることを楽しんでいる。

「お店屋さんごっこ」では、商品作りにおいて、身近な物を作るので、イメージをもちやすく意欲をもって取り組めると考える。そして、友達と共通の目的に向かって遊びを進めていくことは、みんなで一緒にできたという満足感を味わえると考え。数人の友達と一緒にお店屋さんをすることで、話し合いをし、友達と折り合いをつけながら何かを決めて、ものごとを進める経験ができると考える。また、ごっこ遊びを通してお客さんを思いやりたり気遣ったりする姿も期待できる。

このような活動を通して、共通の目的に向かう過程で、様々な感情を味わいながらあきらめずにやり遂げる満足感を味わってほしい。自分の気持ちを大事にすると共に、他の友達の置かれている状況も考え、みんなでものごとをすすめていこうとする姿を育てていきたい。また、様々な材料や道具を使って自分のイメージにより近付くように工夫する面白さを味わってほしい。その他、3歳、4歳児が楽しめるように、困らないように考えたり気遣ったりする思いやりをもってほしい。実際に近隣の商店街「魚の棚」や商業施設に出かけて見学することで、身近な町の店の雰囲気や働いている人の様子に興味をもつことも願っている。

また、本年度は、一年生と、秋の自然を見つけそれを使って制作活動をし、秋祭りをする活動をおこなった。その経験がお店屋さんごっこで店員になるイメージや店作りに必要なことのイメージを膨らませている。楽しかった経験や友達の工夫を生かし、活動に向かえると期待している。

3. ねらい

- ① 自分のしたいお店を決め、作りたい商品やお店に必要なものを考えて作り、可愛いお店にしたい、お客さんにいっぱい来てもらいたい、年少・年中児を喜ばせたいなどと目標をもち、そのためにどうすればよいか考え続け、何度も試したりやり遂げたりしようとする。
- ② 素敵な商品やお店にするための自分の考えに自信をもったり、作りたいと思っているものができたり、前よりも素敵な品物やお店になってきたことを感じたり、自分たちのしたいお店を作りきったり、自分達のお店にたくさんのお客さんが来てくれたり、自分たちが作った商品が売れたり、準備したもので喜んでくれたりしたことに満足したりする。
- ③ グループの友達の気持ちを聞いたり周りの状況を感じたりして、自分も友達も納得できるよりよい方向に向けて自分の気持ちに折り合いをつけようとする。
- ④ 自分がした方がよいと思うことを、責任をもってしようとしたり、自分のしたことを振り返り、よいと思うことを考えてしようとしたりする。
- ⑤ グループの友達と一緒に力を合わせて準備をしたり、困ったときに助けてもらったりする嬉しさを感じて、一緒にお店屋さんごっこをする友達がいる嬉しさを感じる。
- ⑥ 友達と一緒にお店屋さんごっこの準備をする中で、今まで知らなかった個性に気付いたり受け入れたり認めたりしようとする。
- ⑦ グループの友達に自分の気持ちや考えを分かるように言葉を考えて伝えようとしたり、受け入れてもらえるように相手のことを考えた言い方で伝えようとしたりする。
- ⑧ 困っている友達の姿を見たり話を聞いたりして、どうしたらいいのか一緒に考えたり、どこまで教えたり手伝ったりしたらいいか考えてしようとする。
- ⑨ 招待する年少・年中児が分かりやすいよう、楽しめるように、表示や陳列をしたり言葉や話し方などを考えてかかわろうとしたりする。
- ⑩ グループの友達と自分たちが実現したいお店にするために、必要な商品や道具、役割を考えて自分ができることをしようとしたり、作る商品やお店の中での役割分担、お店屋さんごっこの進め方、みんなでお店屋さんごっこをするために必要な決めごとなどについて、みんなが納得するように話し合ったり、試して振り返ったりして決め、決めたことを守ったり自分の責任を果たしたり、見通しをもって進めたりする。
- ⑪ 商品や必要なものを作る中で、道具や素材の感触や特性を感じたり、自分がしたことによるものの様子の違いや変化に気付いたり、原因と結果を結びつけて考えたり、経験から予想したり、試したり、確かめたりしようとする。
- ⑫ 自分たちが実現したいお店に必要な商品やものなどを考え、そのイメージに合わせて、大きさや形、色を考えたり、素材の特徴をいかして選んだり、組み合わせたり、友達の考えをとり入れたり材料からイメージを膨らませたりしながら、作ることを楽しむ。
- ⑬ 店員になりきって接客や呼び込みをすることを楽しむ。
- ⑭ お店をよりよくしたり本物らしくしたりするために、道具や衣装、飾り、看板、値札、BGMなど必要なものを考えて準備しようとする。
- ⑮ 自分たちが使いやすく、お客さんが買いやすくするために、店内のレイア

自ら決める・選ぶ
問題を認識する
豊かに発想し、追求の
手立てを構想する

自分に満足する
実行し、結果をもとに
判断を下す

気持ちをコントロールする

よりよい自分に向かう
自分を客観的に把握する
他者という喜びを感じる

他者のことを知る

自分のことを伝える
問題を認識する
豊かに発想し、追求の
手立てを構想する
他者のことを考えて
行動する

他者のことを考えて
行動する
問題を認識する
豊かに発想し、追求の
手立てを構想する
人ものごとをすすめる
問題を認識する
豊かに発想し、追求の
手立てを構想する
実行し、結果をもとに
判断を下す

事物・現象をとらえる
豊かに発想し、追求の
手立てを構想する

造形に表す
問題を認識する
豊かに発想し、追求の
手立てを構想する

身体の動きに表す

演出に表す
問題を認識する
豊かに発想し、追求の
手立てを構想する
住空間を整える
問題を認識する

- ウトや商品の並べ方、商品の説明書きなどを考えて準備したり、作業しやすいように、場を整えたり、物の置き場を決めたりする。
- ⑩ 商品や必要なものを作る中で、道具や素材の特性をいかして使ったり、用途に合わせて使い分けたりしようとする。
- ⑪ 品物とお金を交換したり、お釣りやレシートを渡したり、**カード提示で品物を渡したり**して、売り買いをすることを楽しむ。
- ⑫ 魚の棚やアスピア、ピオレに行き、お店屋さんの商品やその並べ方、値段の知らせ方、使っているもの、呼びかけ方、話し方、服装などお店屋さんのしている工夫や必要な物などに興味をもって見たり聞いたりする。
- ⑬ まだ使えるかどうか考え、使えるものを取っておこうとしたり、無駄にならない使い方を考えて、大切に使おうとしたり、**道具や素材が傷んだり使えなくなったりしないように丁寧に扱おうとしたり**する。
- * そのほか、お店によって、または、場面によってはもつねらいを以下にあげる。
- お店のお知らせをする際に、招待する年少・年中児が分かりやすいように、何をどんな順序で言うといいか考えて、言葉を決めようとする。
- 知らせたいことを伝えるために、看板や地図、POP広告、**フロアサイン**に描いて知らせようとする。
- 豊かに発想し、追求の手立てを構想する
- 道具をあやつる問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する
財を活用する
- 施設や働く人とながりをもつ
- 資源の活用をみつめる
問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する
- 文章の構成を整える
問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する
自分のことを伝える
問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する

4. 構造

お店屋さんごっこに気持ちが向く

A【「お店屋さんごっこ」について話をする】

- ・自分たちがしてもらったお店屋さんごっこのことを思い出して、話す
- ・自分のしたいお店屋さんを決める
- ・お店屋さんごっこで大切にすることを聞く
- ・仲間が5人以上（6人程度）になるようなお店になるように一緒にできるお店を考える

B【魚の棚やアスピーア、ピオレにお店を見に行く】

- ・お店屋さんで見てくること（お店の種類、お店の人の服やもっている物、お店にある物、商品の並べ方、値段の知らせ方、呼びかけ方、話し方 など）を考えたり、聞いたりする
- ・魚の棚やアスピーア、ピオレのお店やお店で働く人を見る
- ・見つけたことを話す
- ・見つけたことを聞く
- ・お店屋さんごっこに向けて必要なこと（日、場所、準備する時間など）を聞く
- ・自分たちのお店屋さんの計画（作る商品やお店に取り入れたいこと、必要な材料や道具など）をグループの友達と相談したり、書き留めたりする
- ・グループの友達と話し合ったことを紙に書いておく

作りたい商品を決め、考えたり試したり友達と相談したりして作る

C【商品や必要なものを作る】

- ・商品やお金、お店屋さんの道具など作りたいものや必要なものを作る
- ・友達の考えを聞く
- ・友達の作ったものを見る
- ・グループの友達と考えを伝え合う
- ・グループの友達と作ったものを見せ合う
- ・困っていることを友達に伝える
- ・困っている友達を手伝ったり教えたりする
- ・グループの友達と一緒に商品や必要なものを作る
- ・お店屋さんごっこをするために、準備できる日数を意識し、お店屋さんの準備の仕方を友達と話し合って決める
- ・思いついたお店のアイデアを話し合う
- ・必要な物を作るために必要な材料や道具を集めたり探したりする
- ・商品やお金、お店屋さんの道具などを自分なりのイメージで作る
- ・友達の作っているものからヒントをもらったり、新しい素材を取り入れたりして作る
- ・**感触や特性、様子の変化を感じながら様々な道具や素材を使う**
- ・道具や素材の特性をいかし、用途に合わせて使い分けて作る
- ・道具や素材を丁寧に扱ったり片付けたりする
- ・まだ使えるものは戻したり、無駄にならない使い方をしたりする

本物らしくお店を作る

D【開店準備やプレオープンをする】

- ・自分たちが実現したいお店や年少・年中児のことを考えて、遊戯室にお店をどう配置したらよいか、必要な役割やかかわり方、商品の並べ方、準備することなどを相談する
- ・お店に必要な物を遊戯室に運んだり、商品を並べたりする
- ・商品の値段を決めたり、お客さんに分かるような表示をしたりする
- ・年長同士でプレオープンをし、考えていたことを試したり、必要なことに気付いたりする
- ・年少・年中児にお店屋さんごっこをすること、場所、時間、持ち物などを知らせる

お店屋さんになりきる

E【開店する】

- ・年少・年中児を呼び込む
- ・お店に来てくれた年少・年中児と話す
- ・困っている年少・年中児を助ける
- ・いろいろな言葉を使ってお客さんを呼び込む
- ・お店屋さんになりきり、会話をしながら商品売る
- ・使ったものを元の場所に片付けたり、まだ使えるものを戻したりする

A 【「お店屋さんごっこ」について話をする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・自分たちがしてもらったお店屋さんごっこのことを思い出して、話す ・自分のしたいお店屋さんを決める ・お店屋さんごっこで大切にしたいことを考え話す ・仲間が5人以上（6人程度）おりみんなが力を合わせていけるお店になるように仲間にできるお店を考える ・お店屋さんごっこに向けて必要なこと（日、場所、準備する時間など）を聞く ・自分たちのお店屋さんの計画（作る商品やお店に取り入れたいこと、必要な材料や道具など）をグループの友達と相談したり、書き留めたりする	○自分のしたいお店を決め、友達と一緒に、お店屋さんごっこをすることに向かって意欲をもつ。① ○みんなでお店屋さんごっこをするために大切にしたいことを話し合ったり、納得して決めようとしたりする。② ○お店屋さんごっこの開店の日や場所について知り、見通しをもって進めていこうとする。⑩ ○作る商品や必要な材料や道具について、同じお店の友達とみんなが納得するように話し合って決める。⑩ ○自分達のお店に必要な商品やお店屋さんらしくするための道	◎お店屋さんごっこがしたいという気持ちがもてるように、自分たちがしてもらった経験についてや一年生との秋祭りについての話をする場をつくり、楽しかった気持ちに共感し、やりたいという気持ちを盛り上げる。 ◎自分がしたいお店を考えて決められるように、どんなお店があるか様々に出し合った後に個別にしたいお店を聞く。 ◎グループの友達とお店屋さんごっこに向けて力を合わせて全員が納得しながら取り組んでいけるように、大切にしていきたいことを子どもの思いを尋ね引き出しながら一緒に考え、「ともだちとちからをあわせて」「みんながうれしい」を子どもたちの思いと重ねながら共有していく。 ◎みんなが納得して遊びを進めていけるように、どのお店が一緒にできそうか当事者全てに思いを確かめながらグループを作っていく。 ◎いろいろな考えを出し合いながら話し合っ進められるように、5人以上（6人程度）のグループになるようにする。 ◎お店屋さんごっこの日までの見通しをもち、計画を立てられるように、子どもたちが必要な情報（日、場所、準備する時間）をカレンダーを用いて伝える。 ◎作る商品や必要な材料や道具について自分の考えを出し、話し合っ決めていけるように、考えるポイントを意識させたり、一緒に考えながらみんなの考えを整理したりする。 ◎必要な商品や材料、道具などを考えられるように、みんなでお店屋さんを見て見つけたことを出し合ってから、グループで必要なものを話し合う場をもつ。（その際、お店見学から保育参加で同行した保護者に、一緒に見て回ったグループについてもらい、子どもの気付きを思い出させたり、全員の考えが出るよう見守ったりしてもらう。） ◎イメージを膨らませて商品やお店作りに向かえるように、見てきたことを思い出させたり、どんな材料が必要か考えさせたりす

・グループの友達と話し合ったことを紙に書いておく	具や衣装、飾り、看板などを考えたりそれらをつくるために必要な材料を考えたりする。⑫ ○お店をよりよくしたり本物らしくしたりするために、お店見学でいいと思った道具や衣装、飾り、看板、値札、BGMなどを準備するといふと考える。⑭	る。 ◎よりお店らしくするためにどんなことができそうか考えたり覚えておいたりできるように、見て来たことを思い出させたり、友達の気付きを知らせたりする。 *相談したことをグループのみんなで決めたこととして、いつでも見て確かめながら共通理解していけるように決めたことを書いておく紙を用意しておく。 *取り入れたいことを次々に書き留め、自分が絵や字でかきやすい大きさの物を選んでかけるように、いろいろな大きさの付箋を置いておく。
---------------------------------	--	---

B【魚の棚やアスパ、ピオレにお店を見に行く】

予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・お店屋さんで見てくること（お店の種類、お店の人の服やもっている物、お店にある物、商品の並べ方、値段の知らせ方、呼びかけ方、話し方 など）を考えたり、聞いたりする ・魚の棚やアスパ、ピオレのお店やお店で働く人を見る	○魚の棚やアスパ、ピオレに行き、お店屋さんの商品や商品の並べ方、値段の知らせ方、使っているものなどお店屋さんのしている工夫や作り、必要な物などに興味をもって見たり聞いたりする。⑮ ○呼びかけ方、話し方、服装など店員さんに興味をもって見たり聞いたりする。⑮	◎見るポイントを意識できるように、出発の前に、見てくることを考えさせたり、子どもから出てこないことは知らせたりする。 *友達の考えていることがよく分かるように、ホワイトボードを用意し、子どもが考えたことを書いていく。 ◎自分のするお店の商品や商品の並べ方、値段の知らせ方、使っているもの、お店屋さんの工夫や作りを間近で見たり呼びかけ方や話し方を聞いたりできるよう、下見のときに、可能ならばお店に入れてもらえるよう交渉しておく。（詳細は直前まで決めがたいが、下見の日程や見せたいお店の案など、<u>早め</u>に、ピオレ・アスパに申し出ると事務所の方が都合をつけようとしてくださる。） ◎お店屋さんを開く時に必要な物を考えるヒントになるように、何を見せるのか事前に下見をしておき、お店の商品や商品の並べ方、値段の知らせ方、使っているものを見せたり、呼びかけ方、話し方に注目させたり、子どもが見つけたことを受け止めたり、周りの子どもにも伝えたりする。 ◎お店のグループに一人、保育参加の保護者についてもらい、気付かせたいことや見せ

・見付けたことを話す ・見付けたことを聞く	たいものを伝えておき、グループに合った子ども達の気付きが深まるようにする。 *友達の見付けたことがよく分かるように、ホワイトボードを用意し、仲間分けしながらまとめて書いていく。 ◎見付けたことをみんなが知れるように、見てきて見付けたことをみんなのいる場で出し合う場をもつ。
--	---

C【商品や必要なものを作る】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・商品やお金、お店屋さんの道具など作りたいものや必要なものを作る	○作りたいものをあきらめずに作り上げようとする。① ○素敵な商品やお店にするための自分の考えに自信をもつ。② ○作りたいものを作り上げた満足感を味わう。② ○グループの友達の気持ちを聞いたり周りの状況を感じたりして、自分も友達も納得できるよりよい方向に向けて自分の気持ちに折り合いをつけようとする。③ ○自分がした方がよいと思うことを、責任をもってしようしたり、自分のしたことを振り返り、よいと思うことを考えてしようとしたりする。④ ○グループの友達と一緒に力を合わせて準備をしたり、困ったときに助けてもらったりする嬉しさを感じて、一緒にお店屋さんごっこをする友	◎本当にしたいことをやり遂げられるように、くじけそうになっている時には励ましたり応援したりし、技術的に難しい時には手を添えたり手伝ったりする。 ◎自分の考えに自信をもって取り組めるように、こだわったり工夫したりしていることのよさを具体的に伝えたり、認めたり、励ましたりする。 ◎自分で作ったものに自信をもてるように、子どもが考えたり工夫したりしているところを感じたり褒めたり、考えて作ったところを聞いて受け止めたりする。 ◎あきらめずにやり遂げた時には、頑張ったよかったという気持ちをもてるように、一緒に喜んだり褒めたりする。 ◎自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いて受け入れたりしながら自分の気持ちに折り合いをつけていけるように、考えを伝え合わせ、折り合いをつけているのか、我慢して言えなくなってしまうだけなのかを見たり聞いたりして確かめる。 ◎グループの友達と準備をしているときに勝手なことをしているときには、何をすべきなのか考えて行動できるように、周りの状況に気付かせたり、自分の行動を振り返らせたりする。 ◎作ったものを見せ合ったり、手分けして作ったり、困ったときに助けてもらったりして、一緒に準備をする友達がいることを嬉しいと思えるように、見せ合うきっかけを作ったり、助け合う仲間がいて嬉しい気持ちを受け止めたり、感じている嬉しい気持ち

・ 友達の考えを聞く ・ 友達の作ったものを見る ・ グループの友達と考えを伝え合う ・ グループの友達と作ったものを見せ合う ・ 困っていることを友達に伝える ・ 困っている友達を手伝ったり教えたりする ・ グループの友達と一緒に商品や必要なものを作る ・ お店屋さんごっこをするために、準備できる日数を意識し、お店屋さんの準備の仕方を友達と話し合って決める ・ 思いついたお店のアイデアを話し合う	達がいる嬉しさを感じる。⑤ ○友達と一緒にお店屋さんごっこの準備をする中で、今まで知らなかった個性に気付いたり、受け入れたり認めたりしようとする。⑥ ○グループの友達に自分の気持ちや考えを分かるように言葉を考えて伝えようしたり、受け入れてもらえるように相手のことを考えた言い方で伝えようしたりする。⑦ ○困っている友達の姿を見たり話を聞いたりして、どうしたらいいのか一緒に考えたり、どこまで教えてあげたり、手伝ってあげたりしたらいいか考えてしようとする。⑧ ○グループの友達とお店屋さんごっこをするために、必要な商品や道具、役割を考えて、自分ができることをしようしたり、作る商品やお店の中での役割分担、お店屋さんごっこの進め方、みんなでお店屋さんごっこをするために必要な決めごとなどについて、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、みんなが納得するように、話し合って決めようとする。⑩	ちを声に出して伝えたりする。 ◎面白いことを考える、細かいところまで考えて作っているなどそれぞれの個性に気付いたり、考えを知って認め合ったりできるように、それぞれの考えを伝え合わせたり、作ったものを見せ合わせたりする。 ◎グループの友達に自分の気持ちや考えを分かるように伝えられるように、伝える様子を見守り、相手に分かっていないことを質問させたり、教師が簡単な言葉で言い換えて聞いたりする。 ◎相手のことを考えた言い方ができるように、相手のことを考えていない言い方をしている時には、言われた友達の表情を見せたり気持ちを聞かせたりしてどう思っているのかを知らせ、他の言い方を考えさせる。 ◎困っている友達がいる時には、話を聞いたり、友達のためになることを考えて助けたりしようと思えるように、困っている友達を知らせたり、困っている子どもにグループの友達に相談するよう励ましたり、何をしてあげることが友達のためになりそうか尋ねたりする。 ◎作る商品や道具、役割分担などについて自分にできることを考えて準備を進めていけるように、自分で必要なことを考えてしていることをほめたり、友達のしていることを見させたり、考えていることを伝え合わせたりする。 ◎一人一人の子どもの考えていることがグループの友達と分かり合えるように、考えていることを紹介し合わせる。 ◎役割分担やお店屋さんごっこの進め方、みんなでお店屋さんごっこをするために必要な決めごとをグループみんなで話し合って決めていけるように、考えを伝え合わせたり、一部の友達で進めようとしているときには、グループみんなで話をするよう伝えたりする。 ◎自分たちがお店屋さんごっこをするための準備の仕方や出てきた問題を、自分たちで解決していけるように、意見を出し合ったり、友達の意見について考えたり受け入れたりする姿を励ましたりほめたりする。 ◎みんなが納得して決めていけるように、我慢してしまっている友達がいらないか確かめ
--	---	---

- ・必要な物を作るために必要な材料や道具を集めたり探したりする
- ・商品やお金、お店屋さんの道具などを自分なりのイメージで作る
- ・友達の作っているものからヒントをもらったり、新しい素材を取り入れたりして作る

○みんなでお店屋さんごっこをするために必要な決めごとを決めて守ったり、自分の責任を果たしたり、見通しをもって進めたりする。⑩

○必要な商品や道具などを考え、大きさや形、色を考えたり、素材の特徴をいかして選んだり、友達の考えをとり入れたり材料からイメージを膨らませたりしながら、作ることを楽しむ。⑫

る。

◎自分一人で勝手にしているのではなく、グループみんなで一緒にしていることを意識できるように、勝手なことをしている子どもがいる時には、他の子どもに知らせ、これでいいのか考えさせたり、グループのみんなでどうしたらいいか考えて約束を決めさせたりする。

◎みんなで決めた約束を守っていない時には、自分でどうしたらいいのか考えられるように、守らないことで周りの友達が思っていることを聞かせ、自分のしたことを振り返らせる。

*お店屋さんごっこの日までの見通しがもてるようにカレンダーを用意して掲示しておく。

***グループで振り返ったり明日の計画を共有したりして進められるように、書き溜めている付箋を活動場所の近くに置いておく、自由に見たり、1日の活動後に書き足したりできるようにしておく。**

*子ども達が作りたいものや相談したことをすぐに始められるように、いろいろな用具、材料を取り出せるよう用意しておいたり、子どもから要求があればすぐに出せるようにしておいたりする。(画用紙、折り紙、新聞紙、ボール紙、段ボール、箱、カラービニール袋、布テープ、ビニールテープ、セロテープ、油性ペン、色鉛筆、ひも類、ビーズなど)

*魚の棚やアスピア、ピオレで見つけたことを思い出して必要なものを作るように、見つけてきたことを書いた紙や写真をいつでも見られるところに置いておく。

*さらに工夫してみたいと思えるように、刺激となる材料をすぐに出せるよう用意しておく。

*細かいところまで考えたり、作ってみたいと思ったりするように、お店屋さんごっこに刺激となるような本や参考になるような本をおいておく。

◎いろいろな材料を組み合わせたり細かいところまで考えたりして作ろうと思えるように、刺激になる商品を作って見せたり考えて作っている友達の商品を見せたりする。

◎作りたいものに向けて、考えたり試したりして作れるように、考えて作っているところを具体的に褒めたり、周りに知らせたりする。(保護者には、商品の出来栄ではなく、イメージを豊かに、考えたり試したり作り替えたりして作る楽しさやその過程を

・ 感触や特性、様子の変化を感じながら様々な道具や素材を使う ・ 道具や素材の特性をいかし用途に合わせて使い分けて作る ・ まだ使えるものは戻したり、無駄にならない使い方をしたりする ・ 道具や素材を丁寧に扱ったり片付けたりする	○ 商品や必要なものを作る中で、道具や素材の感触や特性を感じたり、自分がしたことによるものの様子の違いや変化に気付いたり、原因と結果を結びつけて考えたり、経験から予想したり、試したり、確かめたりしようとする⑭ ○ 作業しやすいように、場を整えたり、物の置き場を決めたりする。⑮ ○ 道具や素材の特性をいかして使ったり、用途に合わせて使い分けたりする。⑯ ○ まだ使えるかどうか考え、使えるものを取っておこうとしたり、無駄にならない使い方を考えて、大切にしようとする。⑰ ○ 道具や素材が傷んだり使えなくなったりしないように丁寧に扱おうとする。⑱	大切にすることを伝え、支えてもらう) ◎ 材料からイメージ豊かに表現する楽しさを感じられるように、思い付きに驚いたり、表現の面白さを認めたり、工夫をほめたりする。 ◎ 買い物に来てくれる友達が欲しくなるような物を作ろうという気持ちになるように、丁寧に作られた商品を買う人の嬉しい気持ちを言葉にして聞かせる。 ◎ 道具や素材特有の感触や特性を感じたり味わったりするように、他との違いを尋ねたり、試してみてもう感じたか尋ねたり、驚きや面白さに共感したりする。 ◎ 自分がしたことによるものとの様子の違いや変化、原因と結果のつながりについて考えたり、予想したり、試したり、確かめたりするように、違いや変化に気付かせたり、なぜ違うのか不思議がったり、どうしてと思うか尋ねたりする。 ◎ 作ったり品物を置いたりする場を、使いやすいように整えられるように、自分たちのすることになった場づくりと一緒に考えたり、整理しやすいように棚やカゴを用意したり、使いにくい原因を知らせたりする。 ◎ 作ったものがすぐに壊れてしまわない道具や素材の使い方を考えられるように、試して使ってみて丈夫か確かめさせたり、テープの種類や貼り方を考えさせたりする。 ◎ 用途に合わない使い方をしているときには、用途を知らせ、他に使えるものはないか考えさせたり、したいことに適したものを提案したりする。 ◎ 物には限りがあることを感じ、あるものを大事に最後まで使おうと思えるように、まだ使える部分がある端切れを整えて戻す姿を見せたり、一緒にしたり、他の活用方法を一緒に考えたり、必要以上に多く使っている時には、無駄になっていないか尋ねたり代用できるものや仕方がないか一緒に考えたりする。 ◎ 道具や素材を丁寧に扱おうと思えるように、ボンドや紙粘土は乾いたら思うように使えなくなることを見せたり、油性ペンは取れにくいことを思い出させたり、大事な遊戯室の使い方を意識させたりする。
---	--	---

D【開店準備やプレオープンをする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・自分たちが実現したいお店や年少・年中児のことを考えて、遊戯室にお店をどう配置したらよいか、必要な役割やかかわり方、商品の並べ方、準備することなどを相談する	○招待する年少・年中児にとっても、自分たちにとってもより楽しいお店になるために、遊戯室にお店をどう配置するかや出入り口、お金のことなどの必要なことをみんなが納得するように話し合って決めようとする。⑩ ○招待する年少・年中児が分かりやすいよう、楽しめるように、言葉や話し方、商品の並べ方などを考える。⑨	◎よりみんなが嬉しいお店にしたいと、みんなでお店全体のことを考えられるように、ずっと大切にしてきたことを思い出させたり、お店全体の名前をつけたり、各店がどういった場所にあるとよさそうか全体に問いかけたりする。
・年少・年中児にお店屋さんごっこをすること、場所、時間、持ち物などを知らせる	○年少・年中児がお店屋さんを楽しみに来てもらえるように、知らせることや知らせ方を考える。⑨	◎年少・年中児の友達に対するかかわり方、行動の仕方、見やすい商品の並べ方などを考えられるように、教師がお客になって買い物をしたり、プレオープンで半分ずつ店員とお客を体験する機会を作ったりして、お客さんが買い物をしやすいように考えていることをほめたり、気付いたことを出し合い、買い物の仕方が分かりにくいことを伝えてどうすればお客さんが困らないか考えさせたり、お客さんの立場でしてほしいことを伝え合ったりする。 ◎年少・年中児の友達がお店屋さんを楽しみにして来てもらえるように、知らせておいの方がいいことを考えさせたり、知らせ方を考えさせたりする。 ◎考えたことを知らせに行く時には、必ず教師もついていき、必要なことを伝えている様子を見守ったり、年少・年中児の子どもが聞きたいことに、子どもが答えられるように話を整理したりする。
・お店に必要な物を遊戯室に運んだり、商品を並べたりする ・商品の値段を決めたり、お客さんに分かるような表示をしたりする	○自分達のお店を本物らしくするために、必要な道具や衣装、飾り、看板、場作り、商品の並べ方、値段の表示の仕方などを考えて準備する。⑭	◎自分達のお店を本物のお店屋さんらしくしようとするように、道具や衣装、飾り、看板、場作り、商品の並べ方や値段の表示の仕方など考えたり工夫したりしているところを受け止めたり、他のお店屋さんをしている子どもに見せたり、本物のお店屋さんのような並べ方や見せ方を提案したりする。 *遊戯室の実際の場所で十分にお店作りができるように、4～5日前から遊戯室で準備が進められるように他学年と調整する。

E 【お店屋さんごっこをする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・年少・年中児を呼び込む ・お店に来てくれた年少・年中児と話す ・困っている年少・年中児を助ける ・いろいろな言葉を使ってお客さんを呼び込む ・お店屋さんになりきり、会話をしながら商品进行 ・使ったものを元の場所に片付けたり、まだ使えるものを戻したりする	○お店屋さんごっこをやリ遂げ、自分達のお店にたくさんのお客さんが来てくれたことに満足感を味わう。② ○招待する年少・年中児が、楽しんだり喜んだりできるように、自分がどうかかわればいいのか考えてかかわろうとする。⑨ ○困っている友達の姿を見たり、話を聞いたりして、どうしたらいいのか一緒に考えたり、どこまで教えてあげたり、手伝ってあげたりしたらいいのか考えてしようとする。⑧ ○お店屋さんになりきり、お客さんが来てくれるように、呼びかけ方や話し方を考えてお客さんとかかわり、売ルことを楽しむ。⑬ ○品物とお金を交換したり、お釣リやレシートを渡したり、カード提示で品物を渡したりして、売り買いをすることを楽しむ。⑰ ○道具や素材が傷んだり使えなくなったりしないように丁寧に扱おうとする。⑲ ○まだ使えるかどうか考え、使えるものを取っておこうと大切にすル。⑲	*それぞれのお店の様子やお客さんの様子が見渡せるように、遊戯室で一斉にお店を開く。 ◎お客さんがたくさん来てくれる満足感を味わえるように、お客さんが来ていない時には、誘いに行くように促したり、一緒に呼び込んだり、たくさんのお客さんが来てくれたことを一緒に喜んだりする。 ◎お客さんに来てくれた年少・年中児の子どもとゆったりとかかわれるように、お客さんは時間差をつけて招待しておく。 ◎年少・年中児へのかかわり方を意識できるように、視線を合わせて話をしたり、優しく誘ったり、教えてあげたりしている姿を見せたり、褒めたりする。 ◎困っている年少・年中児の友達の話を聞いてあげたり相手のことを考えて助けたりしようと思えるように、困っている年少・年中児の友達がいることを知らせたり、どこまで助けたらいいのか考えて関わっている姿をほめたりする。 ◎お客さんが来てくれる呼びかけ方や話し方を考えてかかわれるように、呼びかけに誘われて年少・年中児が来たことを知らせと一緒に喜んだり、お店屋さんが使っていた言葉や話し方を思い出させたりする。 *お金やカードを介して物のやり取りをする楽しさを存分に感じられるように、全体としては分かりやすく扱いやすいよう千円札の用意を教師が中心になって行い、おつり用のお金やレシート、カードなどは各グループに任せる。 ◎たくさんある道具や素材を一つ一つ丁寧に扱って片付けられるように、丁寧に扱う姿を褒めたり教師の姿を見せたり、残っているものを知らせたりする。 ◎物を大事に考え、まだ使える材料と、そうでないものを分けて片付けられるように、考えて仕分けている姿を褒めたり、仕分けしやすいようにカゴやゴミ袋をみんなの使いやすい場所に移動したりする。